



田辺 弘子

所属・職名	大学院文学研究院・心理学研究室・准教授
略歴	平成 23 年 京都大学総合人間学部卒業
	平成 28 年 京都大学大学院人間・環境学研究科 博士課程修了・博士（人間・環境学）
	平成 28 年 東京大学大学院総合文化研究科助教
	平成 30 年 青山学院大学理工学部助教
	令和 3 年 名古屋大学未来社会創造機構特任助教
	令和 6 年 現職

【身体を通して世界を知る—身体化認知に基づく知覚・感情・行動の理解】

私たちはしばしば、認知や感情といった「心」と運動や姿勢といった「体」を別々のものとして捉えがちである。しかし近年の心理学では、心的過程は身体および環境との相互作用の中で成立するという「身体化認知（Embodied Cognition）」の考え方が注目されている。本研究室では、「身体を通して私たちはどのように世界を認識し、意味づけているのか」という問いに対し、実験心理学的手法を用いてアプローチしている。

例えば、歩行動作に関する研究^{2,3)}では、モーションキャプチャによる3次元動作解析（図1）と視線計測を組み合わせることで、女性の歩行動作の魅力認知プロセスを明らかにした（図2）。その結果から、歩行の魅力の背後には生物学的・進化心理学的な美の基準と、文化的に形成された美の基準という複数の要因が関与する可能性が示唆された。また着衣認知に関する研究では、私たちの毎日の衣服選択を“社会的規範や対人感受性と結びついた行動”として捉え、それが印象管理行動や自己認知に及ぼす影響を検討している。さらに音楽と身体運動の相互作用に関

する研究では、音に合わせて意識的に体を動かすことでグルーブ感が高まる一方で、動きが拍子に一致しすぎるとその感覚がかえって弱まるという、音と身体運動の相互作用的な関係も明らかになった¹⁾。

このように本研究室では、歩行や衣服、音楽、ダンス、スポーツといったさまざまな現象を対象として、身体の動きや状態に加え、社会や文化との相互作用も視野に入れながら、知覚・感情・行動の成り立ちを統合的に理解することを目指している。こうした知見は、芸術体験の理解やスポーツにおける運動学習の最適化、さらには日常的な対人行動の改善にもつながると考えられる。

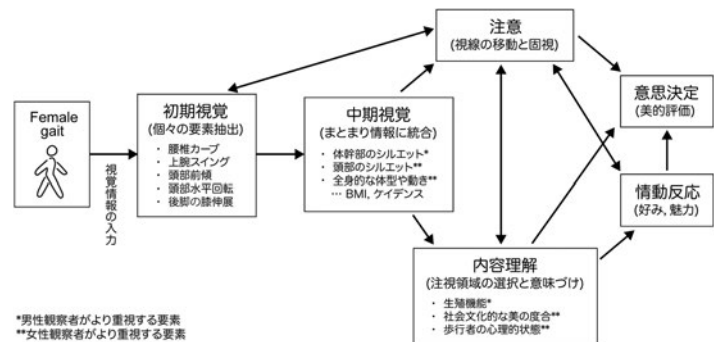


図2：女性の歩行動作の魅力認知の流れ。神経美学の視覚情報処理モデルを参考に女性の歩行動作の魅力認知の流れを図示化したもの。



図1：3次元動作解析システム。トレッドミル上で歩行動作課題を行なっている様子（被験者はプロのファッションモデル）。下肢の表面筋電図と脳波も同時計測した。

【過去5年間（2021～2026）の業績】

- 1) Tanabe, H., Nakajima, M., Shiratori, M., Yamamoto, K., Okano, M. (2026). Embodied Groove-Synchrony Model: Movement context reshapes groove-synchrony coupling and its dominant timescale. *Frontiers in Psychology*, (accepted).
- 2) Tanabe, H., & Yamamoto, K. (2025). Gender differences in attentional processes and attractiveness evaluation models during gait observation. *Frontiers in Psychology*, 16, 1451331.
- 3) Tanabe, H., & Yamamoto, K. (2023). Structural equation modeling of female gait attractiveness using gait kinematics. *Scientific Reports*, 13, 17823